

| | | | |
|--|---|---------|---|
| 授業科目名 | 人間関係論 | 担当講師名 | 高橋 千津子 |
| 開講時期 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 人間と人間の相互関係や看護に焦点をあてた人間関係の特性について学び、ノンバーバルコミュニケーションやカウンセリングの技術を身につける。また、実際の人間関係や看護場面に応用できる臨床的な心理学の知見について学ぶ。 | | |
| 授 業 内 容 | | | 備 考 |
| 1 人間関係の意義 人間関係と看護 人間関係の発達と発達段階 2 人間関係の社会心理 対人魅力と原因帰属 ノンバーバルコミュニケーション(カウンセリングの技法) 3 センシティブティトレーニング 4 心の障害とその治療 ストレスと不応・コーピング・防衛機制 精神病理 心理療法・行動療法 | | | 講義 実技 ビデオ |
| 評価方法 | 筆記試験 | | |
| 教科書 | ワークショップ 人間関係の心理学 (ナカニシヤ出版) | | |

| | | | |
|---------------|--|--|----------|
| 授業科目名 | 教育学 | 担当講師名 | 上田 勝江 |
| 開講時期 | 2年次 前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | <p>教育に関わる課題が、社会の変容とともにいかに変化してきたのかを具体的な事例から学びます。</p> <p>この授業では、①教育学に関する知識を得ること、②多様な視点を持って考えるようになること、③それらを的確に伝えるスキルを高めることを目的とします。</p> | | |
| | 授業内容 | 備 考 | |
| | <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション/教育学とは 2 教育を受けることの意義 3 教育に関わる問題について 4 ジェンダーと教育について I 5 ジェンダーと教育について II 6 家族の子育てと子どもの虐待 7 子どもの貧困と学力について I 8 子どもの貧困と学力について II 9 少年非行は増加しているのか 10 学校へ行かない子どもたち 11 いじめはなぜおこるか 12 子どもの対人関係の変容 13 マイノリティと子どもの教育 I 14 マイノリティと子どもの教育 II 15 復習 | <ul style="list-style-type: none"> ・講義およびグループワークを行う。 ・ディスカッションを行い発表する。 | |
| 評価方法 | <p>毎回の提出物と授業参加度・・・50点 (コメントカードの内容、グループワークに積極的に参加しているか) 期末テスト・・・・・・・50点</p> | | |
| 教科書 | <p>毎回レジメを配布</p> | | |

| | | | |
|-----------|--|--|----------|
| 授業科目名 | 社会福祉Ⅱ | 担当講師名 | 竹元 志保 |
| 開講時期 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標及び概要 | この授業では、社会福祉の考え方について、現代の社会状況や生活・暮らしの視点から理解を深める。 本授業の目標は、①福祉的な視点を理解し、専門職として現場で応用できるようになること、②社会福祉領域との連携への素地をつくること、である。 | | |
| | 授業内容 | 備考 | |
| | 1 現代社会の動向と社会福祉 人口の変化、地域・家族の変化、経済状況の変化 | 教科書第2章 | |
| | 2 社会福祉の法体系、組織と実施体制 | 教科書第1章B | |
| | 3～4 介護保険と高齢者福祉 | 教科書第4章・7章 | |
| | 5～6 貧困・低所得者問題 | 教科書第6章 | |
| | 7～8 障害者福祉 | 教科書第7章 | |
| | 9～10 児童家庭福祉 | 教科書第7章 | |
| | 11 小テスト これまでのまとめ | 教科書第7章C | |
| | 12 社会福祉援助技術の理論と方法 ケースワークの展開過程、バイスティックの7原則 エンパワメント、ストレングス視点、アドボカシー | 教科書第7章B 教科書第7章A | |
| | 13 社会福祉（社会保障）制度を支える専門職 | 配布資料 | |
| | 14～15 社会福祉をめぐる課題と事例検討 | 配布資料 | |
| | 【関連科目】 社会保障論、関係法規、公衆衛生学、在宅看護概論など | ・講義、個人ワーク、グループワーク、ディスカッションなどを行う。 積極的な参加が望ましい。 | |
| 評価方法 | 筆記試験(50%) 小テスト (10%) 毎回の振り返り用紙と授業参加度(40%) | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉（医学書院） | | |

| | | | |
|--|---|--|----------------|
| 授業科目名 | 社会保障論 | 担当講師名 | 新田 正尚 酒井 哲雄 |
| 開講時期 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 1単位 15時間 |
| 授業の目標及び概要 | この授業では、社会保障制度の目的、機能、範囲、歴史、組織、財政等について学習する。とくに、看護の分野では医療保険、介護保険、年金制度についての理解が必要であり、基本的な仕組みなど具体的に学び、看護の対象を支えている社会保障制度の概観をつかむことを目的とする。 | | |
| 授 業 内 容 | | 備 考 | |
| <p>1 社会保障の理念</p> <p>日本の保健医療福祉活動の基本方向</p> <p>概念 目的 機能 体系 内容 人権 日本国憲法 25条</p> <p>倫理 ノーマライゼーション 情報公開 地方分権 参加</p> <p>社会保障給付費 社会保障制度改革</p> <p>2 社会保障制度</p> <p>1)社会保険の変遷</p> <p>歴史、意義 国民皆保険 皆年金</p> <p>2) 医療保険制度</p> <p>保険診療の仕組み</p> <p>医療保険の財政 診療報酬制度 国民医療費</p> <p>保険給付と利用者負担 給付の内容</p> <p>医療保険の種類</p> <p>健康保険、国民健康保険と高齢者の医療制度</p> <p>3) 介護保険制度</p> <p>制度の基本理念</p> <p>制度の仕組み</p> <p>介護保険の財政 介護保険事業計画</p> <p>保険者・被保険者 要介護・要支援の認定</p> <p>保険給付と利用者負担</p> <p>給付の内容</p> <p>ケアマネジメント</p> <p>4) 年金制度</p> <p>制度の体系 給付と費用負担</p> <p>5) その他の社会保険制度</p> <p>雇用保険法 労働者災害補償保険法</p> | | <p>【関連科目】</p> <p>社会福祉 I II</p> <p>関係法規</p> <p>公衆衛生学</p> <p>老年看護学概論</p> <p>在宅看護概論</p> | |
| 評価方法 | 筆記試験 | | |
| 教科書 | よくわかる社会保障 (ミネルヴァ書房) | | |

| | | | |
|---|--|---|----------------|
| 授業科目名 | 関係法規 | 担当講師名 | 朽木 悦子 高橋 育美 |
| 開講時期 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 1単位 15時間 |
| 授業の目標及び概要 | <p>看護職を取り巻く行政法・社会法の分野は、国民のニーズの変化に伴い、日々変化してきており、「看護」の現場を取り巻く医療法規の解釈は、看護業務の適切な履行、事故防止、また事故への対処において重要な要素である。</p> <p>本授業では、保健師助産師看護師法を中心に、医療法、保健衛生法規、労働関係法規の概要を学び、看護職を取り巻く法的背景を理解する。</p> | | |
| 授 業 内 容 | | 備 考 | |
| <p>1. 法の概念 法律の概要、衛生法、衛生行政体制、WHO</p> <p>2. 看護法 ①保健師助産師看護師法 目的、沿革、定義、免許、業務、研修、義務、医療過誤 ②看護師等の人材確保の促進に関する法律 目的、人材確保の為の措置、ナースセンター、離職届</p> <p>3. 医事法 ①医療法 沿革、目的・定義、選択の支援、医療安全、開設、管理、人員、構造設備、記録、医療計画 ②医療関係者資格法 医師法、歯科医師法</p> <p>4. 保健衛生法 【高橋担当】 ①地域保健法、健康増進法、 ②分野別保健法 母子保健・精神保健福祉・感染症・予防接種・検疫 がん・肝炎・自殺・難病・災害・食品衛生</p> <p>5. 労働法・社会基盤整備 労働基準法、労働安全衛生法、過労死防止対策推進法 石綿被害救済法、育児・介護休業法、男女共同参画社会法、DV法、個人情報保護法</p> | | <p>【関連科目】 社会福祉ⅠⅡ 社会保障論 看護の統合と実践</p> | |
| 評価方法 | 筆記試験 | | |
| 教科書 | <p>系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 (医学書院) 私たちのよりどころ保健師助産師看護師法 (日本看護協会出版会) 図説国民衛生の動向 2020/2021</p> | | |

| | | | |
|---------------|--|---|-----------------------|
| 授業科目名 | 看護学概論Ⅱ | 担当講師名 | 高岡 操 |
| 開講時期 | 2年次 前期 | 単位及び時間数 | 1単位 15時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 看護理論の変遷を学び、看護理論家を通じて看護の本質とは何かを考える姿勢を身につける 看護研究の基礎的知識を学び、看護実践を通じて研究的視点を広げる | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | 備考 |
| 1 | 看護理論とは 看護理論の歴史と変遷 理論の重要性・看護理論の分類 | 看護理論の誕生 理論の発展過程 概念モデル・大理論 中範囲理論・実践理論 | 講義 |
| 2 | 主な理論家とその理論概要 (1) F・ナイチンゲール | 看護覚え書 臨床看護の本質 セルフケア 基本的ニード 人間関係理論 看護の探求 | 文献学習 グループワーク 発表 |
| 3 | (2) A・ウィーデンバック (3) V・ヘンダーソン (4) D・Eオレム (5) H・E・ペプロウ | | |
| 4 | (6) J・トラベルビー (7) A・Jオーランド (8) A・E・ロジャース (9) P・ベナー | | |
| 5 | 研究的取り組み | | |
| 6 | (1) EBN 根拠に基づいた看護実践 | | |
| 7 | (2) 看護研究における倫理的問題と対応 (3) 文献検索について (4) 看護研究の方法 | 研究の意味、FBN、研究になるもの、ならないもの 生命倫理、インフォームド コンセント、個人情報保護、 モラル研究デザイン、 研究計画書、 ケースレポートの構成、 ケーススタディ | グループワーク 講義 |
| 8 | (5) 研究計画書の書き方 (6) 発表論文の書き方 | | |
| まとめ | 基礎看護学実習Ⅱで受け持った患者の看護実践を振り返り、看護の本質を考察する。(レポート課題、発表) | ※教科外活動 | 個人ワーク 発表 |
| 評価方法 | 筆記試験 グループワーク等の発表 レポート | | |
| 教科書 | ○看護理論「看護理論20の理解と実践への応用」(南江堂) ○系統看護学講座別巻「看護研究」(医学書院) ○系統看護学講座 看護学概論(医学書院) | | |

| | | | |
|-------|----------|---------|----------|
| 授業科目名 | 基礎看護学実習Ⅱ | 担当講師 | 高岡 操 ほか |
| 対象学生 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 2単位 90時間 |

基礎看護学実習Ⅱ

【実習目的】

1. 基礎看護学で習得した基礎看護技術を用い、一連の看護過程に沿って対象の看護が展開できる
2. 看護学生としての責任と看護職としての倫理について学ぶことができる

【実習目標】

1. 対象を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解することができる
2. 対象に必要な看護が実践できる
3. 対象者と援助的関係を構築することができる
4. 看護者としての倫理、実践する者としての責任を自覚し、看護学生として基本的な実習態度を身につけることができる

| | | | | |
|---------------|---|---|----------------|----|
| 授業科目名 | 成人看護学方法論 I | 担当講師名 | ①高田 紳吾 ②樋口 雄之輔 | |
| 開講時期 | 2 年次前期 | 単位及び時間数 | 1 単位 30 時間 | |
| 授業の目標 及び概要 | 1. 急性・重症看護をもとに、生命の危機状況への支援、合併症の予防、回復への援助について学ぶ 2. 疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ | | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | 備考 | |
| 1 | 急性・重症看護の特徴 | アギュララ・フィンクの危機理論 急性期看護の特徴と役割 | 講義 | 高田 |
| 2 | 呼吸機能低下のある患者の看護 | 呼吸器の構造と機能、検査・治療の看護 (呼吸機能検査と血液ガス分析、胸腔ドレナージ) | | |
| 3 | | 肺腫瘍患者の看護、気胸・開胸手術 | | |
| 4 | | 呼吸機能低下のある患者の看護 | | |
| 5 | | (呼吸機能のアセスメント、看護過程) | | |
| 6 | | ※慢性閉塞性肺疾患の事例展開 | | |
| 7 | | 虚血性心疾患患者の看護 | | |
| 8 | | 解離性大動脈瘤、動脈閉塞症 | | |
| 9 | 不整脈のある患者の看護 | 不整脈のある患者の看護 弁膜症 | | |
| 10 | 心機能低下のある患者の 看護 | 心機能低下のある患者の看護 | | |
| 11 | | (循環機能のアセスメント、看護過程) | | |
| 12 | | ※心不全の事例展開 | | |
| 13 | 呼吸機能・心機能低下のある患者の看護 | 呼吸機能・心機能低下にある患者の看護実践 | 演習 | |
| 14 | 救急看護 | 二次的救急処置 (ACLS) 、ショックへの対応、急性肺炎、熱傷、気道熱傷、一酸化炭素中毒 | 講義及び演習 | 樋口 |
| 15 | | | | |
| 評価方法 | ①90 点 (筆記試験、レポート課題) ②10 点 (筆記試験) | | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 成人看護学総論 成人看護学① (医学書院) 系統看護学講座 呼吸器 成人看護学② (医学書院) 系統看護学講座 循環器 成人看護学③ (医学書院) ゴードン看護診断マニュアル (医学書院) | | | |

| 授業科目名 | 成人看護学方法論Ⅱ | 担当講師名 | 六田 良彦 |
|---------------|---|-------------------|----------|
| 開講時期 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 1. 手術を受ける患者・家族に対する生命維持、苦痛の緩和、早期回復に向けた看護について学ぶ 2. 手術による身体侵襲とボディイメージの変化を理解し、手術後の機能障害に対する援助や手術後の継続的な自己管理に対する援助を学ぶ | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | 備考 |
| 1 | 周手術期の看護 | 手術侵襲 | 講義 |
| 2 | 周手術期の特徴と看護の特徴 手術前看護 | 術前処置 術前訪問 | |
| 3 | 手術中看護 | 手術室看護 | |
| 4 | 手術後看護 術後合併症の予防 | 回復の促進 早期離床 ドレーン管理 | |
| 5 | | 縫合不全 術後イレウス | |
| 6 | 開腹術と腹腔鏡手術 | 開腹術 腹腔鏡下手術 | |
| 7 | 食道癌患者の看護 | 集学的治療 | 演習 |
| 8 | 大腸癌患者の看護 | 排便コントロール | |
| 9 | 人工肛門造設患者の看護 | ストマ ボディイメージ | |
| 10 | 胃癌患者の看護（看護過程） | 術後合併症 | |
| 11 | 発症から社会生活復帰までの過程における看護を展開する | ダンピング症候群 | |
| 12 | | 早期離床 | |
| 13 | | 食事指導 | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験 70点 レポート 30点 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 成人看護学 消化器（医学書院） 系統看護学講座 臨床外科看護総論（医学書院） ゴードン 看護診断マニュアル（医学書院） | | |

| | | | |
|-----------|---|---|----------|
| 授業科目名 | 成人看護学方法論Ⅲ | 担当講師名 | 高田紳吾 |
| 開講時期 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標及び概要 | 1. 慢性疾患など生涯にわたりコントロールを必要とする対象及び家族の特徴を知りその状況に応じた看護の役割と方法を学ぶ 2. 疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | 備考 |
| 1 | 慢性疾患の特徴 | 疾患・治療の特徴とセルフマネジメント | 講義及び演習 |
| 2 | セルフマネジメントの援助方法 | 対象理解とセルフマネジメント支援 | |
| 3 | | 自己効力感、エンパワメント | |
| 4 | 内部環境調整機能障害のある患者の看護①（肝機能障害） | 肝炎・肝硬変の看護 | |
| 5 | | 原発性肝癌の治療と看護 門脈圧亢進症・食道静脈瘤の看護 | |
| 6 | | 食事療法、薬物療法 | |
| 7 | 内部環境調整機能障害のある患者の看護②（代謝機能障害・糖尿病） | 内部環境調整機能障害のある患者の看護 （代謝機能のアセスメント、看護過程） ※糖尿病患者の事例展開 | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 11 | 内部環境調整機能障害のある患者の看護③（患者への支援） | 血糖測定及び患者支援のシミュレーション | |
| 12 | 腎不全の看護 | 急性腎不全の症状と看護 | |
| 13 | | 慢性腎不全の症状と看護 | |
| 14 | | 病期に応じた腎不全の看護 | |
| 15 | 甲状腺機能異常の看護 | 甲状腺機能障害低下症、バセドウ病 | |
| 評価方法 | レポート課題、筆記試験 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 成人看護学総論 成人看護学①（医学書院） 系統看護学講座 消化器 成人看護学⑤（医学書院） 系統看護学講座 内分泌・代謝 成人看護学⑥（医学書院） 系統看護学講座 腎泌尿器 成人看護学⑧（医学書院） ゴードン看護診断マニュアル（医学書院） | | |

| | | | |
|---------------|---|---|--------------|
| 授業科目名 | 成人看護学方法論Ⅳ | 担当講師名 | ①六田良彦 ②村上 巖 |
| 開講時期 | 2年次後期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 1. リハビリテーション期における患者の身体的、心理的、社会的な側面について学ぶ。 2. 疾患によって起こる患者の症状や、看護について学ぶ。 | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | 備考 |
| 1 | リハビリテーション期の概念と特徴 | 国際生活機能分類 | 講義 DVD |
| 2 | 脳・神経系の疾患をもつ | ADL、自立、セルフケアの再獲得 | GW |
| 3 | リハビリテーション期患者の看護 | 残存機能、生活の再構築 | 学内演習 |
| 4 | (事例で考える/脳血管疾患・脊髄損傷患者) | 廃用症候群の予防 | |
| 5 | | 居住環境、補助具 | |
| 6 | 脳・神経系の症状・障害をもつ | 心理的葛藤 | 講義 |
| 7 | リハビリテーション期患者の看護 | 多職種連携、社会資源の活用 | GW |
| 8 | | 障害のある人の余暇活動 | 学内演習 |
| 9 | 排泄機能障害の治療と看護① | 1. 膀胱癌、前立腺肥大 2. TUR-BT、3. 尿路再建術と管理への支援 | 講義 (村上講師) |
| 10 | 排泄機能障害の疾患と看護② | 1. 大腸癌 2. 人工肛門造設術と管理への支援 | |
| 11 | 視覚障害のある患者の看護 | 生活への影響 | 講義 |
| 12 | 生殖機能障害のある患者の看護 | | GW |
| 13 | 乳がん患者の看護 | リンパ浮腫 手術後の生活 | DVD |
| 14 | 乳がん手術後の合併症予防① | 乳がん手術後のリハビリテーション | 発表 |
| 15 | 乳がん手術後の合併症予防② | パンフレット 生活指導 | |
| 評価方法 | ①六田良彦 90点 ②村上講師 10点 | | |
| 教科書 | 系統別看護学講座 成人看護学⑦脳・神経 医学書院 系統別看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器 医学書院 系統別看護学講座 成人看護学⑨女性生殖器 医学書院 系統別看護学講座 成人看護学⑬眼 医学書院 | | |

| | | | |
|---------------|--|---------------------------|---------------|
| 授業科目名 | 成人看護学方法論Ⅴ | 担当講師名 | ①高田 紳吾 ②神崎 美和 |
| 対象学生 | 2年次後期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 1. がん患者の全人的苦痛を理解し、治療に応じた看護の方法と症状が及ぼす苦痛に対する看護について学ぶ 2. 疾患によって起こる患者の症状や、治療に必要な看護について学ぶ | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | 担当 |
| 1 | 緩和ケアとは何か | 緩和ケア ホスピス | 高田 |
| 2 | 緩和ケアの歴史と看護の役割 | QOL | |
| 3 | がん患者の全人的苦痛と QOL | トータルペイン 全人的苦痛 キューブラーロス | |
| 4 | 看取りのケア | 死後の処置 | |
| 5 | 症状マネジメント | WHO 疼痛ラダー | 神崎 |
| 6 | 疼痛を持つ患者へのケア | 麻薬の取扱 | |
| 7 | 呼吸器症状をもつ患者のケア | 浮腫 呼吸困難 安楽な体位 | |
| 8 | 倦怠感のある患者へのケア | リンパマッサージ 腹部マッサージ | |
| 9 | 浮腫のある患者へのケア 消化器症状を持つ患者へのケア | 温罨法 グリーフケア | |
| 10 | アレルギー疾患を持つ患者の看護 | アレルギー反応 アナフィラキシーショック | 高田 |
| 11 | | I型 II型 | |
| 12 | 自己免疫疾患を持つ患者の看護 | 関節リウマチ | |
| 13 | 感染症をもつ患者の看護 | HIV | |
| 14 | 白血病患者の看護 | 化学療法 集学的療法 | |
| 15 | | 放射線治療 化学療法 免疫療法 手術療法など | |
| 評価方法 | 筆記試験 配点 ①60点 ②40点 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 成人看護学④血液・造血器 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学⑩アレルギー・膠原病・感染症 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学⑫皮膚 (医学書院) ナーシンググラフィカ 緩和ケア (メディカ出版) | | |

| | | | |
|-----------|--|--|--------------------------------|
| 授業科目名 | 老年看護学概論 | 担当講師名 | 東浦 龍至 |
| 開講時期 | 2年次 前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標及び概要 | <p>一人ひとりの高齢者が、どのような健康状態にあっても、その人らしく生きることを支える看護について学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を取り巻く社会の動向を理解する 2. 高齢社会における保健医療福祉制度や施策を理解する 3. 加齢に伴う高齢者の生活と健康状態の変化について理解する 4. 多様な生活の場で高齢者の健康を支える看護について理解する 5. 看護者に求められる問題解決能力の基礎を学習することで、主体的学習行動を習得することができる | | |
| 回数 | 内容 | キーワード | 備考 |
| 1 | 老年看護の特徴 | 理論と概念 | 講義、 |
| 2 | 高齢者理解の基本 | 超高齢社会の統計的輪郭 日本史、生活史 保健医療福祉制度 介護保険 介護予防、ヘルスプロモーション エイジズム、アドボカシー、虐待 成年後見制度 | |
| 3 | 高齢者の特徴と理解 | | |
| 4 | 高齢者を支える制度 | | |
| 5 | 高齢者を支える社会資源 | | |
| 6 | 高齢者にとっての健康 | | |
| 7 | 高齢者の権利擁護 | | |
| 8 | 老年期の発達課題 | | エリクソンによる発達課題 【統合対絶望】 |
| 9 | | | |
| 10 | 地域で生活している高齢者 | | |
| 11 | | | |
| 12 | 身体に加齢変化とアセスメント | 皮膚とその付属器、視聴覚 | 講義、DVD、個人ワーク |
| 13 | | 循環器系、呼吸器系 | |
| 14 | | 消化・吸収、ホルモンの分泌 | |
| 15 | | 運動器系、腎・泌尿器 | |
| 評価方法 | 筆記試験(80点)・課題レポート(20点)合計100点 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 (メヂカルフレンド社) | | |

| | | | |
|---------------|---|-----------------------------|-------------|
| 授業科目名 | 老年看護学方法論 I | 担当講師名 | 東浦 龍至 山内 恵美 |
| 開講時期 | 2 年次 前期 | 単位及び時間数 | 1 単位 30 時間 |
| 授業の目標 及び概要 | さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活および健康を支える看護について学ぶ 1. 高齢者に特有な健康障害を理解する 2. 健康障害に応じた援助方法を理解する 3. 高齢者を看護する留意点について理解を深める | | |
| 回数 | 講義内容 | キーワード | 担当 講師 |
| 1 | 老年症候群 | 急性疾患に付随する症候(発熱、脱水症) | 東浦 |
| 2 | | 慢性疾患に付随する症候(やせ、低栄養、しびれ、浮腫) | |
| 3 | | ADL 低下に合併する症候(転倒、嚥下障害、フレイル) | |
| 4 | 精神・神経疾患 | 脳血管障害 | |
| 5 | | パーキンソン病・パーキンソン症候群 | |
| 6 | 循環器系疾患 | 虚血性心疾患、心不全 | |
| 7 | 呼吸器系疾患 | 誤嚥性肺炎、閉塞性肺疾患 | |
| 8 | 腎・泌尿器系の疾患 | 腎不全、尿路感染症 | |
| 9 | 運動器の疾患 | 大腿骨頸部骨折、骨粗鬆症 | |
| 10 | 感覚器の疾患 | 加齢黄斑変性症、白内障 | |
| 11 | 認知機能の障害 | うつ状態 | 山内 |
| 12 | | せん妄 | |
| 13 | | 認知症 | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験 100 点(東浦 60 点 山内 40 点) | | |
| 教科書 | 系統看護講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 (メデカルフレンド社) | | |

| | | | |
|---------------|---|------------------------|----------------------|
| 授業科目名 | 老年看護学方法論Ⅱ | 担当講師名 | 東浦 龍至 |
| 開講時期 | 2年次 後期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | さまざまな健康状態にある高齢者と家族の生活および健康を支える看護について学ぶ 1. 高齢者の日常生活を支える看護について理解する 2. さまざまな健康状態や受療状況に応じた高齢者の看護を理解する | | |
| 回数 | 講義内容 | キーワード | 備考 |
| 1 | 高齢者のフィジカルアセスメント | 高齢者総合的機能評価、フィジカルアセスメント | 講義、演習 |
| 2 | | | |
| 3 | 高齢者疑似体験 | 加齢現象、安全、安楽 | 演習、個人ワーク、グループワーク |
| 4 | | | |
| 5 | 高齢者の生活機能を整える看護 | 転倒 | 転倒スコア、環境、移乗移動動作 |
| 6 | | 廃用症候群 | 早期離床、ポジショニング |
| 7 | | 食事・食生活 | 嚥下、90度ルール |
| 8 | | 排泄 | 排尿・排便障害、自助具 |
| 9 | | 清潔 | 入浴時の安全・安楽・自立、口腔ケア |
| 10 | | 生活リズム | 睡眠と生活リズム |
| 11 | | コミュニケーション | コミュニケーションの工夫 |
| 12 | 治療を必要とする 高齢者の看護 | 薬物療法 | 多剤併用、有害反応 |
| 13 | | 手術療法 | 術後合併症、早期離床 |
| 14 | | リハビリテーション | 回復期リハビリテーション病棟、看護の役割 |
| 15 | | 終末期 | エンドオブライフケア、意思決定、悲嘆 |
| 評価方法 | 筆記試験(60点)・課題レポート(20点)・演習内容(平常点含む20点) | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 (メヂカルフレンド社) | | |

| | | | |
|---------------|--|--------------------------|---------------|
| 授業科目名 | 老年看護学方法論Ⅲ | 担当講師名 | 東浦 龍至 |
| 開講時期 | 2年次 後期 | 単位及び時間数 | 1単位 15時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 紙上事例を基に、さまざまな健康状態、受療状況にある高齢者に対して必要な看護が展開できる基礎的能力を習得する | | |
| 回数 | 授業内容 | キーワード | 備考 |
| 1 | 疾患の学習 | 疾患と看護の理解 | 個人ワーク・グループワーク |
| 2 | 看護とアセスメントの視点 | 健康レベルに応じた看護・ゴードンの11項目 | |
| 3 | アセスメント | 情報整理、分析、エビデンス、看護の方向性 | |
| 4 | 看護診断 | 診断名、関連因子、目標、計画内容との整合性 | |
| 5 | 看護計画 | | |
| 6 | 看護計画の実施 | 対象者の身体状況のアセスメント・看護計画の妥当性 | |
| 7 | プログレスノート | 看護計画との整合性、エビデンス | |
| 8 | リフレクション | アセスメント～看護計画までの追加・修正 | |
| 評価方法 | 課題レポート 60点・(平常点・グループワーク協力度 40点) | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 看護実践のための根拠がわかる老年看護技術 (メヂカルフレンド社) | | |

| | | | |
|---------------|--|--------------------|-------------|
| 授業科目名 | 小児看護学概論 | 担当講師名 | 上田 智恵美 |
| 開講時期 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | <p>小児の特徴及び社会の動向を知り、子どもと家族の権利を擁護する小児看護のあり方について学ぶ。</p> <p>① 小児看護の意義・役割・機能が述べられる。 ② 小児の特徴と各期の成長・発達について述べられる。 ③ 小児保健の動向と保健対策の概要を知り、看護の役割と機能が述べられる。 ④ 子どもと家族の最善の利益を目指した看護を考えることができる。</p> | | |
| 授業内容 | | キーワード | 備考 |
| 1 | 小児看護の特徴と理念 ・小児看護の対象・看護の目的と役割・小児看護の変遷 | 子どもとは | |
| 2 | 小児と家族の諸統計 ・人口構造・出生と家族・子どもの死亡 | 少子高齢化 人口減少傾向 | 国民衛生 の動向 |
| 3 | 子どもの成長と発達 ・定義と原則・影響因子・成長の評価 | 発達の原則 | |
| 4 | 身体計測 (身長・体重・胸囲・腹囲) | 発達評価 | 演習 |
| 5 | 子どもの栄養 ・食育 ・発達段階別栄養の特徴と看護 | 食育 | |
| 6 | 新生児期の特徴と看護 ・形態的・身体生理・各機能の発達 | サーカディアンリズム 原始反射 | |
| 7 | 乳児期の特徴と看護 | 情緒の分化 離乳 | |
| 8 | 幼児期の特徴と看護 | 社会性 認知機能 言葉の発達 | |
| 9 | 幼児の生活習慣の獲得 | しつけ トイレトレーニング | |
| 10 | 学童期の特徴と看護 | ギャングエイジ | |
| 11 | 思春期の特徴と看護 | 第二次性徴・心理的離乳 | |
| 12 | 家族の特徴 ・子どもにとっての家族とは ・現代家族の特徴とアセスメント | | |
| 13 | 子どもと家族を取り巻く社会① ・児童福祉法・母子保健法・予防接種法 | | 国民衛生 の動向 |
| 14 | 子どもと家族を取り巻く社会② ・学校保・健特別支援教育・臓器移植法 | | 国民衛生 の動向 |
| 15 | まとめ | | |
| 評価方法 | 筆記試験 (小テストを含む) 90% 課題レポート 10% | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 小児看護学① (医学書院) 国民衛生の動向 写真でわかる小児看護技術 (インターメディカ) | | |

| | | | |
|---|---|---------|----------|
| 授業科目名 | 小児看護学方法論 I | 担当講師名 | 藤岡 弘季 |
| 開講時期 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 小児の発達と発育を軸とした小児疾患の病態を理解する | | |
| 授業内容 | | 備考 | |
| 1. 新生児 新生児の特徴と独自の病態 酸素療法について 2. 感染症 予防接種と各種感染症 3. 消化器疾患 4. 呼吸器疾患 5. 循環器疾患 6. アレルギー疾患 7. 血液疾患 8. 神経・筋疾患 9. 内分泌・代謝疾患 10. 腎・尿路疾患 11. 免疫疾患・膠原病 12. 骨・関節・感覚器疾患 13. 皮膚・精神疾患 14. 小児救命救急処置 小児救急におけるトリアージと方法 小児の熱傷の特徴・重症度および処置 一次救命処置 小児の事故・外傷・虐待の特徴 | | 講義 | |
| 評価方法 | 筆記試験 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児臨床看護各論 (医学書院) | | |

| | | | |
|-----------|--|---------------------|----------------------|
| 授業科目名 | 小児看護学方法論Ⅱ | 担当講師名 | 徳田 薫 |
| 開講時期 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標及び概要 | ①病気や入院による子どもとその家族に及ぼす影響と看護について理解することができる ②小児の疾患について、小児の特徴を踏まえて理解し、それぞれの状態に応じた看護が展開できる ③子どもに起こりやすい症状について、それぞれの状態に応じた看護援助の方法を考えることができる ④医療安全の観点から小児の発達課題に伴うリスクについて考えることができる | | |
| 授業内容 | | キーワード | 備考 |
| 1 | 健康障害をもつ子どもとその家族への看護 | ICFモデル | GW |
| 2 | 快適な病院環境に向けての看護 ① 特徴、機能、看護、環境、安全、感染防止 | サークルベッド 啓発ポスター作成 | GW |
| 3 | 快適な病院環境に向けての看護 ② | | 発表 |
| 4 | 子どもに特有な症状のアセスメントと看護 ① (呼吸器疾患を持つ児と家族の看護) 事例を使用し、関連図作成 必要な看護を考える | RSウイルス肺炎 | 事例 GW |
| 5 | 子どもに特有な症状のアセスメントと看護 ② (呼吸器疾患を持つ児と家族の看護) | | GW |
| 6 | 子どもに特有な症状のアセスメントと看護 ③ (呼吸器疾患を持つ児と家族の看護) | | 発表 |
| 7 | 子どもに特有な症状のアセスメントと看護 ① (消化器疾患を持つ児と家族の看護) 事例を使用し、必要なアセスメントと看護を考える | ロタウイルス感染症 | GW |
| 8 | 子どもに特有な症状のアセスメントと看護 ② (消化器疾患を持つ児と家族の看護) | | GW |
| 9 | 感染症と隔離について | 隔離 スタンダード ブリーチ | 講義 |
| 10 | 活動制限・運動制限のある児と家族への看護 活動制限の目的とケアの基本 | 上腕骨顆上骨折 安静 | ワーク ケアプラン作成 |
| 11 12 | 小児に必要な看護技術 | プレパレーション | GW 指導案作成 作成→発表 |
| 13 | 救急看護 熱傷 外傷 異物誤飲 虐待 など | 救急蘇生 | 講義 |
| 14 15 | 小児に必要な看護技術Ⅲ グループ演習 バイタルサイン測定 沐浴等 | 手順書 | 実習室演習 |
| 評価方法 | 筆記試験 80% 授業参加度 5% 発表 15% | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児臨床看護各論 (医学書院) 写真でわかる小児看護技術アドバンス (インターメディカ) | | |

| | | | |
|-----------|--|----------------|--|
| 授業科目名 | 小児看護学方法論Ⅲ | 担当講師名 | 徳田 薫 |
| 開講時期 | 2年次後期 | 単位及び時間数 | 1単位 15時間 |
| 授業の目標及び概要 | <p>1. 小児期にある健康障害を持つ対象を理解し、それぞれの状態に応じた看護が展開できる能力を身につける</p> <p>①疾患・治療が及ぼす影響を最小限にし、成長・発達を促す援助を考えることができる</p> <p>②患児及び家族への生活指導に対して、計画的・実践的な援助を考えることができる</p> | | |
| 授業内容 | | キーワード | 備考 |
| 1 | 小児看護学における看護過程の展開を学ぶ 看護実践するために必要なデータベースを見いだす (データの整理) | 情報の整理 | 個人ワーク 各講義終了後、 指定日時までに 課題提出。 |
| 2 | ②③小児看護学における看護過程の展開を学ぶ 対象を表しているデータを解釈・判断・推論し、対象を知り理解するために必要なことを明確にする | アセスメント | |
| 3 | 同上 | アセスメント | |
| 4 | ④小児看護学における看護過程の展開を学ぶ 対象に必要な看護が見いだす | 看護診断立案 目標設定 | |
| 5 | ⑤小児看護学における看護過程の展開を学ぶ 対象に必要な看護が見いだす | 看護計画内容立案 | |
| 6 | ⑥小児看護学における看護過程の展開を学ぶ 現在の健康状態をしり、日々のアセスメントができ、看護の方向性を見出すことができる | フローシート | |
| 7 | ⑦⑧小児看護学における看護過程の展開を学ぶ | 評価・退院指導案作成 | |
| 8 | 退院に必要な看護指導を実施する(紙面) | | |
| 評価方法 | レポート点 100% (講義参加度、積極性も含む) | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 小児臨床看護各論 (医学書院) 写真でわかる小児看護技術 (インターメディカ) | | |

| | | | |
|-----------|---|--|----------|
| 授業科目名 | 母性看護学概論 | 担当講師名 | 井手窪 澄子 |
| 対象学生 | 2年生前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標及び概要 | <p>1. リプロダクティブ・ヘルスの基礎（概念、整理、倫理、法・制度）や動向および看護の基本的な知識を学ぶ。</p> <p>2. 女性のライフサイクル各期における健康課題を理解し、ウィメンズヘルスに関する看護の基本的な知識を学ぶ</p> | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | |
| 1 | 母性看護とは セクシャリティ（人間の性） | 母性看護の理念、母性看護の役割 ジェンダー、セクシャリティ、性の多様性 | |
| 2 | 母性看護の歴史の変遷と現状 母子保健の動向 | 母性、父性、親性 母子相互作用 母子保健統計 子育て支援施策 | |
| 3 | 母性看護における法律、施策 | 母子保健法、母体保護法、育児休業法、 労働基準法、男女雇用機会均等法 | |
| 4 | | | |
| 5 | リプロダクティブヘルスケア | ウィメンズヘルスライツ、女性の健康 DV、性感染症、喫煙、飲酒、 | |
| 6 | | | |
| 7 | 女性のライフサイクルにおける形態・ 機能の変化 | 月経機能の調節機序、卵巣の周期的変化、 性周期における変化、卵胞の発育 | |
| 8 | | | |
| 9 | 女性のライフサイクルにおける健康① （思春期～青年期） | ヘルスプロモーション、セルフケア、 月経異常、 | |
| 10 | 女性のライフサイクルにおける健康② （成熟期） | 家族計画、妊娠・分娩・出産 | |
| 11 | 女性のライフサイクルにおける健康③ （更年期・老年期） | 更年期症状、閉経 | |
| 12 | 母性看護に関する理論 | ウェルネスの視点、早期接触、母子相互作用 | |
| 13 | 母性看護における倫理的問題 ① | 不妊治療、出生前診断、 | |
| 14 | 母性看護における倫理的問題 ② | 死産、グリーフケア、人工妊娠中絶 | |
| 15 | まとめ | | |
| 評価方法 | 配点：筆記試験 80% 授業の参加度およびレポート課題 20% | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 母性看護学① 母性看護学概論（医学書院） 系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論（医学書院） 国民衛生の動向 | | |

| | | | |
|---------------|---|--|------------|
| 授業科目名 | 母性看護学方法論 I | 担当講師名 | 井手窪 澄子 |
| 対象学生 | 2 年生前期 | 単位及び時間数 | 1 単位 30 時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 1. マタニティサイクル（妊娠、分娩、産褥、新生児期）の正常及び異常経過について理解する 2. ライフサイクル各期（思春期、成熟期、更年期・老年期）の健康と健康障害について理解する | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | 備考 |
| 1 | 妊娠期の身体のしくみ | 妊娠の定義、妊娠のメカニズム、精子、受精、着床 胎児の成長と発育 | 講義 |
| 2 | ハイリスク妊娠 | ハイリスク妊娠、超音波断層法、胎児 well-being | 講義 |
| 3 | 妊婦と胎児にみられる異常① | 妊娠悪阻、流産、妊娠高血圧症候群、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、過期妊娠、多胎妊娠、妊娠糖尿病 | 講義 |
| 4 | 妊婦と胎児にみられる異常② | 胎児の形態異常、胎児の発育異常、胎児付属物の異常 | 講義 |
| 5 | 分娩期の身体のしくみ | 分娩開始、分娩の3要素、分娩のメカニズム | 講義 |
| 6 | 分娩の異常（難産） | 無痛分娩、微弱陣痛、児頭骨盤不均衡、胎児機能不全 | 講義 |
| 7 | 産褥期の身体のしくみ 産褥の経過 | 子宮復古、悪露、後陣痛、乳汁分泌の生理 | 講義 |
| 8 | 褥婦にみられる異常 | 子宮復古不全、産褥熱、血栓性静脈炎、乳腺炎 | 講義 |
| 9 | 新生児の身体のしくみ 子宮外環境への適応 | 子宮外適応、呼吸の確立、胎児循環、新生児の体温調節、嘔吐と溢乳、新生児の覚醒と睡眠 | 講義 |
| 10 | 新生児にみられる異常① | 低出生体重児、一過性多呼吸、動脈管開存症、双胎間輸血、 | 講義 |
| 11 | 新生児にみられる異常② | 低血糖、鎖肛、高ビリルビン血症、先天性風疹症候群、成人T細胞白血病、先天性代謝異常マスキリーニング、分娩外傷 | 講義 |
| 12 | 褥婦の心理的社会的な変化、母親に 起こりやすい心の病理 | 母性性の変化、マタニティサイクルと気分障害、不安障害 | 講義 |
| 13 | 出生前診断 | 出生前診断の意義と概要 | 講義 |
| 14 | 分娩の経過 | 分娩正常経過 | DVD |
| 15 | ライフサイクル各期（思春期、成熟期、 更年期・老年期）の健康と健康障害 | 月経異常・性感感染症・更年期症状・閉経 | 講義 |
| 評価方法 | 筆記試験 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 (医学書院) | | |

| 授業科目名 | 母性看護学方法論Ⅱ | 担当講師名 | 井手窪 澄子 |
|------------|---|--|----------|
| 対象学生 | 2年生後期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標および概要 | 1. マタニティサイクル（妊娠・分娩・産褥および新生児期）の特性について理解する 2. マタニティサイクルにある母子が健康的な生活を送るために必要な看護について理解する | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | |
| 1 | 妊婦と胎児のアセスメント （ウエルネスの視点） | 妊婦健康診査、分娩予定日、超音波検査、母子健康手帳、妊婦の心理、レオポルド触診法、子宮底、腹囲測定、NST、 | |
| 2 | 妊婦の保健指導の実際 | 妊娠各期の保健指導、マイナートラブル、妊娠中の食生活、バースプラン、小集団指導、個別指導 | |
| 3 | 妊娠期の異常と看護 | 妊娠悪阻、流早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、妊娠貧血、血液型不適合妊娠、双胎間輸血症候群 | |
| 4 | 産婦と胎児の健康状態のアセスメント（ウエルネスの視点） | 分娩3要素、分娩機転、ビショップスコア、フリードマン曲線、パルトグラム、CTG | |
| 5 | 母子の健康を保つための看護 分娩第1期から4期の看護 | 分娩所要時間、陣痛周期、産痛緩和、呼吸法、LDR | |
| 6 | 分娩期の異常と看護 分娩異常と処置、帝王切開術 | 前期破水、胎児機能不全、弛緩出血、帝王切開、主な産科処置（吸引分娩、会陰切開） | |
| 7 | 褥婦の健康状態のアセスメント （ウエルネスの視点） | 子宮復古、悪露、排尿・排便 会陰部痛、乳汁分泌、ポジショニングとラッチオン 頻回授乳 | |
| 8 | 母親役割獲得への援助 | 褥婦の心理、ルービン、バースレビュー、マタニティーブルー、産後うつ病 | |
| 9 | 胎外生活適応へ向けての看護 | アプガースコア、呼吸の確立、生理的体重減少、生理的黄疸 | |
| 10 | 新生児の健康状態とアセスメント （ウエルネスの視点） | 新生児の看護の原則、保育環境、ドライケア、自律授乳 | |
| 11 | 母性看護に必要な基礎的援助技術 | 新生児の観察、沐浴、ドライケア | |
| 12 | 新生児期の異常と看護 | 子宮復古不全、産褥熱、貧血、乳腺炎、産後うつ | |
| 13 | 産褥期の異常と看護 | 高ビリルビン血症、低出生体重児、死産、先天性奇形 | |
| 14 | 技術演習 | 妊婦の子宮底測定、レオポルド触診、胎児心音聴取、分娩機転、新生児のバイタルサイン測定、新生児の衣類の着 | |
| 15 | まとめ | | |
| 評価方法 | 筆記試験 80%、レポート課題・授業の参加度・出席状況 20% | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論 （医学書院） 根拠と事故防止から見た母性看護技術 （医学書院） | | |

| | | | |
|---------------|---|--------------------------------------|----------|
| 授業科目名 | 母性看護学方法論Ⅲ | 担当講師名 | 井手窪 澄子 |
| 対象学生 | 2年次後期 | 単位及び時間数 | 1単位 15時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 妊・産・褥婦および新生児の正常経過を理解したうえで、対象に必要な看護を展開するために必要となる基本的なアセスメント能力を養う | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | |
| 1 | 正常経過をたどっている妊婦のアセスメント | 子宮底長、血圧、体重、Hb、NST 胎児推定体重、マイナートラブル | |
| 2 | | | |
| 3 | 正常経過をたどっている産婦のアセスメント | 破水の種類、子宮口開大、産痛緩和、分娩所要時間、分娩時出血量 | |
| 4 | 正常経過をたどっている新生児のアセスメント | 生理的体重減少、生理的黄疸、胎便、移行便、経日変化 | |
| 5 | | | |
| 6 | 正常経過をたどっている褥婦のアセスメント | 退行性変化、進行性変化、母親役割獲得過程、母乳育児支援、 | |
| 7 | | | |
| 8 | 母乳育児支援の看護計画の作成 | ポジショニング、ラッチオン | |
| 評価方法 | レポート課題、ワークへの取り組み姿勢 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 母性看護学② 母性看護学各論 (医学書院) 根拠と事故防止から見た母性看護技術 (医学書院) マタニティ診断ガイドブック 第5版 (医学書院) | | |

| | | | |
|---|--|---------|----------|
| 授業科目名 | 精神看護学概論 | 担当講師名 | 増田 明 |
| 開講時期 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | <p>こころの健康とは何か、こころが病むとはどういうことなのか、これらを学習することで広く人間を理解することを探求する。さらに、精神看護領域における基本的援助技術及び看護場面における介入の裏付けとなる対人関係論について学習する。また、精神保健福祉制度の歴史的変遷及び関連法規についての理解を深め、最近の動向を踏まえて看護のあり方を探求し、実践能力の向上を図る。</p> | | |
| 授業内容 | | 備考 | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学で学ぶこと 2. 精神看護学で学ぶこと 3. 精神保健の考え方 4. 精神の健康と障害 5. ストレスマネジメント 6. 人間の心のはたらき 7. パーソナリティーの発達 8. 甘えの理論 9. ストレスマネジメント 10. 関係の中の人間 11. 精神障害の治療と歴史 12. 日本の精神医療 13. 精神障害と法制度 14. プロセスレコード 15. まとめ | | 講義 | |
| 評価方法 | 平常点 50点 筆記試験 50点 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 精神看護学 精神看護の基礎 (医学書院) (参考書) 土居健朗『甘えの構造』弘文堂 2005 | | |

| | | | |
|---|---|---------|----------|
| 授業科目名 | 精神看護学方法論 I | 担当講師名 | 岩瀬綽子 |
| 開講時期 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 精神科の医療機関のみならず、幅広い分野で知識を生かせるように習得していく。まず、基盤となる人権について、その歴史を学び理解を深める。そして、すべての疾患の看護に共通する精神の働きを知ると共に、各精神疾患について、その特徴と知識を学ぶ。 | | |
| 授 業 内 容 | | | 備 考 |
| 1. 精神障害と治療の歴史（世界） 2. 日本における精神医学・精神医療の流れ 3. パーソナリティと気質、知能、意識と認知機能、感情について 4. パーソナリティの発達理論 5. ストレスと心の危機 6. 精神を病むとは？ 精神症状論と状態像、精神障害の診断と分類 7. 各種疾患の症状、成因論、疫学、治療等について： 神経発達症群 統合失調症または他の一次性障害群 気分症＜障害＞群 不安または恐怖症関連症群 強迫症または関連症群 ストレス関連症群 解離症群 食行動症または摂食症群 身体的苦痛症群または身体的体験症群 物資使用症＜障害＞群または嗜癖行動症＜障害＞群 衝動制御症群・秩序破壊的または非社会的行動症群 パーソナリティ症＜障害＞および行動の障害 パラフィリア症群。作為症群 神経認知障害群 その他、精神科関連疾患として、睡眠・覚醒症群、心身症、てんかんなど 8. 精神疾患の治療：身体療法、精神療法、その他 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎（医学書院） | | |

| | | | |
|---|---|---------|----------|
| 授業科目名 | 精神看護学方法論Ⅱ | 担当講師名 | 増田 明 |
| 開講時期 | 2年次後期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 精神看護の対象の特性を理解し、こころの健康を維持するため援助と、精神障害者及び家族への援助に必要な基礎的知識を学び、社会資源を活用した地域生活を支えるシステムを探求する。 | | |
| 授業内容 | | 備考 | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の対象Ⅰ 2. 精神看護の対象Ⅱ 3. ケアの人間関係Ⅰ 4. ケアの人間関係Ⅱ 5. 回復を助けるⅠ 6. 回復を助けるⅡ 7. 安全をまもるⅠ 8. 安全をまもるⅡ 9. 身体をケアするⅠ 10. 身体をケアするⅡ 11. サバイバーとしての患者とそのケア 12. 地域における精神保健と精神看護 13. リエゾン精神看護 14. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 15. まとめ | | 講義 | |
| 評価方法 | 平常点 50点 筆記試験 50点 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 精神看護学 精神看護の展開 医学書院 (参考書)『精神神経疾患ビジュアルブック』学研メディカル秀潤社 2015 | | |

| | | | |
|--|---|---------|----------|
| 授業科目名 | 精神看護学方法論Ⅲ | 担当講師名 | 六田 良彦 |
| 開講時期 | 2年後期 | 単位及び時間数 | 1単位 15時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 個々の事例を通して、精神看護に必要な自己洞察について学び、こころの問題に直面している対象に必要な看護が展開できる能力を身につける。 | | |
| 授業内容 | | | 備考 |
| 1. 精神障害者との関わり方 自己洞察の方法と他者理解の必要性 プロセスレコードの作成 2. 統合失調症や気分障害をもつ人の紙上事例を用い、オレム・アンダー ウッド理論モデルによる看護計画を立案する。 3. 個々の事例を共有するために、紙上展開された事例発表を行う。 | | | 演習 |
| 評価方法 | レポート、ロールプレイ：100点 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 精神看護学 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学 精神看護の展開 (医学書院) | | |

| | | | |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 授業科目名 | 成人看護学実習 | 担当講師 | 高田 紳吾 ほか |
| 対象学生 | 2年次後期～3年次 | 単位及び時間数 | 6単位 270時間 |

成人看護学実習Ⅰ

【実習目的】

慢性的な健康障害及び身体機能の変調のある対象を理解し、対象の自己管理に向けた看護・セルフケアの自立に向けた看護を実践する基礎的能力を養う

【実習目標】

1. 健康障害及び身体機能の変調により慢性的な経過をたどる対象を身体的・心理的・社会的側面から理解することができる
2. 慢性的な経過をたどる対象に向けた看護が実践できる
3. 継続看護の必要性を理解し、対象を取り巻く保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割を考慮することができる
4. 実践内容を踏まえ慢性的な経過をたどる対象に向けた看護を考慮することができる

成人看護学実習Ⅱ

【実習目的】

手術を受ける及び生命の危機的状況にある対象を理解し、周手術期における看護・生命の危機的状況における看護を実践できる基礎能力を養う

【実習目標】

1. 急激な健康状態の変化がある対象を身体的・心理的・社会的側面から理解することができる
2. 急激な健康状態の変化がある対象に向けた看護が実践できる
3. 継続看護の必要性を理解し、対象を取り巻く保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割を考慮することができる
4. 実践内容を踏まえ急激な健康状態の変化がある対象に向けた看護を考慮することができる

成人看護学実習Ⅲ

【実習目的】

終末期にある（緩和ケアを必要とする）対象を理解し、終末期における看護（苦痛緩和に向けた看護）を実践できる基礎的能力を養う

【実習目標】

1. 終末期にある（緩和ケアを必要とする）対象を身体的・心理的・社会的・霊的側面から全人的に理解することができる
2. 終末期における（苦痛緩和に向けた）看護が実践できる
3. 継続看護の必要性を理解し、対象を取り巻く保健・医療・福祉チームの連携と看護の役割を考慮することができる
4. 実践内容を踏まえ終末期における（苦痛緩和に向けた）看護を考慮することができる

| | | | |
|-------|------------|---------|-----------|
| 授業科目名 | 老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ | 担当講師 | 東浦 龍至 |
| 対象学生 | 2年次後期～3年次 | 単位及び時間数 | 各2単位 90時間 |

老年看護学実習Ⅰ

【実習目的】

老年期にある対象を全人的に理解し、対象に応じた看護を実践できる基礎能力を習得する

【実習目標】※病院実習

1. 加齢による機能障害を持った対象者を全人的に理解できる
2. 対象者の入院生活における医療の場の実際と看護を説明できる
3. 対象者看護における多職種連携と継続ケアの必要性がわかる

【実習目標】※白寿苑実習

1. 加齢による機能障害を持った対象者を全人的に理解できる
2. 対象者の生活の場、療養の場の実際と看護を説明できる
3. 対象者看護における多職種連携と継続ケアの必要性がわかる

老年看護学実習Ⅱ

【実習目的】

老年期にある対象を全人的に理解し、対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を習得する

【実習目標】

1. 健康障害および加齢による機能障害をもった対象を全人的に理解できる
2. 老年期にある対象の健康障害の複雑さ、多様性を理解し、健康障害の状態に応じた看護が実践できる
3. 老年期にある健康問題をもつ対象と家族の関係を理解し、対象と家族への支援方法が理解できる
4. 保健医療福祉チームにおける看護職の役割と責任を考え、継続・連携できる看護のあり方がわかる

| | | | |
|---------------|--|---|----------|
| 授業科目名 | 在宅看護概論 | 担当講師名 | 辻野 美嘉 |
| 開講時期 | 2年次前期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 在宅看護のイメージ化をはかり、地域における看護師像を描くことができる。 1 在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の概念が説明できる。 2. 在宅看護の対象、活動の場、看護活動の特徴が説明できる。 3. 在宅看護の展開に必要な法・制度・社会資源についてわかる。 4. 地域での看護師はどうあるべきかを自己の意見として述べる事ができる。 | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | 備考 |
| 1 | I 在宅看護の目的と特徴 | 在宅看護 訪問看護 地域看護 巡回看護 派出看護 | 講義 |
| 2 | II 在宅看護の対象者 1) 対象者の特徴 | 認知症高齢者の日常生活自立度 障害高齢者の日常生活自立度 介護者 | 講義 |
| 3 | 2) 家族のとらえ方 | 家族の定義 家族システム理論 家族発達理論 ジェットコースター理論 二重ABC-X理論 カルガリー家族アセスメントモデル 家続エンパワメントモデル | 講義 |
| 4 | III 在宅療養の支援 | 退院調整 退院支援 訪問看護 外来看護 施設看護 通所サービス看護 | 講義 |
| 5 | IV 在宅看護にかかわる法令と制度 1) 介護保険法 | 介護サービス 介護予防サービス 日常生活総合支援事業 介護認定 地域包括支援センター | TBL |
| 6 | 2) 医療保険と介護保険 | 医療保険 介護保険 後期高齢者医療 | 講義 |
| 7 | 3) 公費負担医療制度ほか | 難病法 障害者総合支援法 小児慢性特定疾病 自立支援医療 精神通院医療 | 講義 |
| 8 | 4) 訪問看護の制度 | 訪問看護事業 訪問看護ステーション 利用料 | 講義 |
| 9 | 5) 地域における多職種連携 | 社会資源 多職種連携 協働 地域連携 | 講義 |
| 10 | V 障害者と医療的ケア児 | 障害者総合支援法 障害者差別解消法 | 演習 |
| 11 | VI 在宅看護におけるリスクマネジメント | 転倒予防 救急を要する症状アセスメント 災害への備え | 講義 |
| 12 | VII 療養者と権利保障 1) 療養者の権利保障 | 個人の尊厳 自己決定権 個人情報の保護 成年後見 虐待防止 | 演習 |
| 13 | 2) 在宅看護における倫理 | 自己決定 療養者の権利 サービス 契約 | 演習 |
| 14 | VIII 在宅看護の展望 | 地域包括ケアシステム 地域での看護師の機能と役割 | 講義 |
| 15 | | の拡大 | 演習 |
| 評価方法 | 筆記試験 90点 授業参加度 10点 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 在宅看護論 (医学書院) 看護実践のための根拠が分かる在宅看護技術(メヂカルフレンド社) | | |

| | | | |
|---------------|---|---------------------------|------------|
| 授業科目名 | 在宅看護方法論 I | 担当講師名 | 太田 和江 |
| 開講時期 | 2 年次後期 | 単位及び時間数 | 1 単位 30 時間 |
| 授業の目標 及び概要 | <p>在宅において合理的かつ経済的な方法を用い、医療処置等家族への療養指導を踏まえた看護技術を提案するための基礎的な知識を習得する。</p> <p>1.在宅医療で用いられている機器や器具について理解することができる 2.看護技術を在宅で提供するときの考え方の基礎を身につける 3.事例に基づいた療養生活を支援する自助具について企画し、発表することができる</p> | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | 備考 |
| 1 | I 在宅技術概論 | 住環境 福祉用具 | 講義 |
| 2 | II 在宅生活をささげる基本的技術 | フィジカルアセスメント 環境整備 感染予防 | 講義 |
| 3 | III 在宅生活援助技術 | 低栄養 おむつの工夫 | 講義 |
| 4 | | 訪問入浴 入浴援助 | 演習 |
| 5 | IV 在宅医療管理支援 1)排泄管理援助 | CAPD APD バルンカテーテル ストマ | 講義 |
| 6 | 2)在宅酸素療法 | HOT(在宅酸素療法) 酸素濃縮器 CPAP | 演習(帝人) |
| 7 | | | 講義 |
| 8 | 3)在宅人工呼吸療法 | HMV(在宅人工呼吸療法) | 講義 |
| 9 | 4)経管栄養法 輸液管理 | 胃瘻管理 HPN 栄養管理 | 講義 |
| 10 | 5)服薬管理と疼痛緩和 | 服薬管理 在宅疼痛緩和ケア | 講義 |
| 11 | 6)臨死期の援助 | 在宅での看取り 遺体の取り扱い | 講義 |
| 12 | 7)在宅褥瘡管理 | 褥瘡予防 移動工夫 | 講義 |
| 13 | V 訪問看護のマナー | 訪問マナー モラル | 演習 |
| 14 | 模擬訪問実習 | 模擬訪問実習 ロールプレイ | 演習 |
| 15 | VI 在宅療養支援の工夫 自助具作成 | 看護用具 自助具 | 演習 |
| 評価方法 | 筆記試験 70 点 授業参加度 10 点 自助具 20 点 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 在宅看護論 (医学書院) 看護実践のための根拠が分かる在宅看護技術(メヂカルフレンド社) | | |

| | | | |
|---------------|--|--|----------|
| 授業科目名 | 在宅看護方法論Ⅱ | 担当講師名 | 太田 和江 |
| 開講時期 | 2年次後期 | 単位及び時間数 | 1単位 30時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 在宅療養生活のQOLを高め、より長く維持、継続させていくための方策を学ぶ 1. 訪問看護導入から終結までの流れが説明できる 2. 在宅療養者の特徴に基づく在宅における看護が理解できる 3. 様々な社会資源を用いながら療養支援を考えることができる 4. 自己決定を支える支援を考えることができる | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | 備考 |
| 1 | I 在宅看護介護時期別の特徴 | 退院調整 住環境整備 介護力 | 講義 |
| 2 | II 療養者の特徴に基づく看護の実際 ①脳卒中を起こした在宅療養時 | 訪問リハビリテーション | 講義 |
| 3 | ②認知症のある療養者 | バリデーション ユマニチュード タクティール 徘徊高齢者 SOS ネット ワーク 高齢者虐待 | 講義 |
| 4 | ③独居療養者 | 定期巡回/随時対応サービス セルフネグレクト | 演習 |
| 5 | ④小児療養児 | 医療的ケア児 養育医療 障害児通 所支援 小児慢性特定疾病 | 講義 |
| 6 | ⑤統合失調症のある療養者 | 精神通院医療 地域移行支援・定着 支援 アウトリーチ | 講義 |
| 7 | ⑥中途障害をもつ療養者 | 障害者総合支援法 障害年金インフ ォーマルサービス | 演習 |
| 8 | ⑦筋萎縮性側索硬化症 | QOLとSOL | 講義 |
| 9 | | 意思決定支援 | 講義 |
| 10 | ⑧難病を支える社会資源を考える | 多職種連携 | 演習 |
| 11 | | サービス担当者会議 | 演習 |
| 12 | III 在宅ターミナルケア1 | エンドオブライフケア アドバンスケアプランニング | 講義 |
| 13 | 在宅ターミナルケア2 | 老衰 自然死 | 演習 |
| 14 | IV 自己決定を支える支援の在り方 | 居宅サービスの是非 施設と在宅の意味 | 演習 |
| 15 | ① 独居療養者の退院先 ② サービスを拒否する療養者 | | ディベート |
| 評価方法 | 筆記試験 80点 授業参加度 20点 | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 在宅看護論 (医学書院) 看護実践のための根拠が分かる在宅看護技術(メヂカルフレンド社) | | |

| | | | |
|---------------|--|-----------------------------------|-------------|
| 授業科目名 | 在宅看護方法論Ⅲ | 担当講師名 | 辻野 美嘉 |
| 開講時期 | 2年次後期 | 単位及び時間数 | 1単位 15時間 |
| 授業の目標 及び概要 | 訪問看護過程の特徴を見出し、看護展開の基礎能力をみにつける 1. 在宅看護におけるアセスメントの方法と方向性を理解する 2. 生活の視点で考えた支援計画が立案できる 3. 在宅ケアのネットワーク構築の必要性が理解できる | | |
| 回 | 授業内容 | キーワード | 備考 |
| 1 | I 訪問看護過程の特性 フェイスシート | 訪問看護過程とケアマネジメント 居室 週間ケア計画 要介護度 | 講義 |
| 2 | II 在宅における データベースアセスメント ①機能的健康パターンⅠ～Ⅳ | 内服管理 配食サービス 栄養のアセスメント | グループ ワーク |
| 3 | ②機能的健康パターンⅤ～Ⅶ | ADL IADL 訪問リハビリテーシ ョン 自己実現 | グループ ワーク |
| 4 | ③機能的健康パターンⅧ～Ⅺ | 家族アセスメント 役割認識 自己決定 | グループ ワーク |
| 5 | III 在宅における看護診断 計画立案 統合アセスメント 看護計画 | 多職種協働 合理性 経済性 | グループ ワーク |
| 6 | IV 在宅ケアネットワーク | 社会資源 フォーマル、インフォー マル 多職種連携 | グループ ワーク |
| 7 | V 支援計画立案 | | グループ ワーク |
| 8 | | | グループ ワーク |
| 評価方法 | 授業参加度 50点 レポート 50点（統合アセスメント、看護計画立案） | | |
| 教科書 | 系統看護学講座 在宅看護論（医学書院） 看護実践のための根拠が分かる在宅看護技術（メヂカルフレンド社） | | |